

■会議結果報告書■

会議名称	第4回札幌市子どもの権利委員会
日時・会場	平成22年4月27日(火) 16:30~18:30 STV北2条ビル6階1~3会議室
出席委員	13人出席
次回開催	平成22年6月開催予定

議題	概要等
<p>1. 議題</p> <p>(1) 子どもの権利救済機関運営状況について</p>	<p>○資料3に基づき子どもの権利救済委員から運用状況について説明の後、質疑を行った。</p> <p>(質疑) 調査・調整に際して配慮したことを教えてほしい。</p> <p>(回答) 調査・調整にあたっては、市教育委員会と連携を図るとともに、一つの場面だけをとらえて判断するのではなく、相手方の話しをよく聞くことに努めた。</p> <p>(質疑) 学校からも相談を受けているが、どのような内容なのか。</p> <p>(回答) 学校との調整が必要となり救済機関から学校に話しをしたときに、実は学校も困っているということで相談に発展した事例である。</p> <p>(質疑) 児童相談所に関する事例で虐待以外の内容にはどのようなものがあるのか。</p> <p>(回答) 虐待そのものではなく、児童相談所に相談したいという事例である。</p> <p>(質疑) 救済後も寄り添うような仕組みがあるのか。</p> <p>(回答) 現時点で救済後に引き続き相談を受けている事例はない。</p>
<p>(2) 子どもに関する実態・意識調査の結果について</p>	<p>○資料4に基づき事務局から説明</p> <p>(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利に対する意識が大人と子どもに若干のずれを感じる。今後どのように整合性を図っていくのか札幌市の課題だと思う。 パンフレット、ポスターなど条例について見る機会は小学生でも多いと思うが、調査結果では知られていない。子どもも権利条例があるということについて理解した上で、権利を主張すべき。 「条例に定められている権利が守られているか」という問に対して、「守られていない」と答える割合が高いのは「いじめ、虐待、体罰などから心や体が守られること」という項目で、まさに現状を表している。今後の行政施策にこうした実態をいかせないかと思う。 「今の子ども「小・中・高校生」を取り巻く環境についての印象」についての問で、『思う』の割合が高い「有害な情報がはん濫している」、「自己中心的な親や大人が多い」、「社会の先行きが不安である」ということについては我々もそのように感じている。それを受けてかどうかはわからないが、「あなたは、ふだんの生活の中で、周囲の子どもと関わりがありますか」という問で、「出会ったときにはあいさつをする」ことが増え、「関わりはない」という人が減っているのは、唯一の救いだと思う。 自分を認めてほしい、かわいがってほしいということが中学生の第一の考えではないかと、この資料から読み取っている。 小学校でも同じで、愛されることに対する充足感が足りない子どもが見受けられるので、それを何とかしたいと必死で闘っているのが教育現場だと思う。 H15年にもだいたい同じような結果となっているが、それ以降行政はどんなことを取り組んだのか。また、この結果で出た問題に対して、何をすべきか委員会で考えたいと思う。 条例にすることが一番周知されるということであったが、結果、条例の認知度が低いのは非常に残念であり、市民の関心が低いと感じる。 子どもたちは自分が一人の人間として尊重されていないということをなんとか

	<p>く感じている。子どもの権利が本質的なところで守られていないということが結果に出ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単に認知度を高めるのではなく、条例を正しく理解してもらわないとならない。そのためには、学校教育がベースにならざるをえない。行政や教育によって、これからどのように子どもたちや親に浸透させていくかが重要だと思う。
<p>(3) 今後の進め方について</p>	<p>○計画策定に当たっての今後の進め方について事務局から提案</p> <p>①次回以降、計画の考え方やある程度の柱をどう作るか議論してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料5に他都市の計画を添付したので、参考としてもらいたい。 資料7にさっぽろ子ども未来プランを添付した。この中でも各種目標を掲げており、プランにおいても第一の目標と位置付けているので、計画策定の際には参考としてもらいたい。 <p>②子どもが対象なので、子どもの意見も聞きたいが、どのような形で意見を聞くか、議論をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在事務局では、例えば10～20人で2～3回ワークショップを開催することや、テーマがある程度決まっていれば、アンケートを行うことなどをイメージしている。 事務局だけでなく、各委員、特に高校生委員にはできれば協力をお願いしたい。 <p>○各委員からの意見：①計画の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 他都市の計画を見ると、高知では「体験」が柱となっているが、他は「権利意識の向上」が柱となっている。「体験」も大事だが、札幌では権利の向上を柱としてもらいたい。人口が札幌に一番近く、古くから施策を進めている川崎市が参考になると考える。 様々な子どもの権利条例があるので、いい権利条例を参考にしてもらいたい。 子どもの権利を考えるときには重点にすべきところはどこなのか、様々な施策の優先順位を考えるのも大事だと思う。 教育と行政が一体となって権利の普及をしていくことが重要。 事務局で資料5にある3つの自治体の実際の計画を用意してほしい。 (5月6日送付済み) 事務局：他都市を参考にしつつも、札幌らしい部分についても検討していただきたい。 <p>○各委員からの意見：②子どもの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> 歳が近いほうが子どもの意見は聞きやすいので、高校生委員としてもできるだけ手伝いたい。 いろいろな立場の子どもの意見を拾い上げ、幅広く子どもの意見を聞きたい。 いわゆるマイノリティの立場の子どもの意見を聞くことも大事である。 他にも意見があれば、事務局に提出し、事務局で意見を集約し、たたき台を作ることとした。
<p>2. 事務局から報告</p>	<p>○「子どもに対する情報発信&子どもの参加」手引き（トライアル版）</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政として施策の中で子どもの視点を盛り込むことが必要なため、職員向けに作成。 現在はトライアル版だが、各部署から意見を聞き、それを踏まえて正式版を作成予定。各委員も意見があれば出していきたい。 今後は市民向けの手引きも作っていきたい。 <p>○「さっぽろ子ども未来プラン後期計画</p>
<p>3. その他</p>	<p>○次回の日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月の2週、遅くとも3週には開催したい。(6/7、6/8、6/14、6/15で調整中) 5月の連休明けには日程調整を行う。 委員長の日程を確保できる月曜日または火曜日の開催を基本としたい。 開始時間については現在は16：30だが、夏休み中の期間であれば、開始時間を早めることも考えられる。 <p style="text-align: right;">以上</p>